

深川交通安全協会 南北で大きく異なる街の

表情。南の豊洲地区はさらに変化中

▼さかに行われている自転車部会員による自転車教室。深川安協の特徴の一つになっている



▲元気な交通安全少年団は町の人気者



▶毎月28日、深川不動尊で行われる高齢者に対する交通安全キャンペーンはすっかり定着。毎回多くの高齢者が参加している



▲子どもを対象としたトラックの死角体験も実施した

昨年、暑始まって以来の快挙「死亡事故ゼロ1年」を達成

深川警察署の管内は、江東区の南西部。低地で河川や運河が多く、これらに架かる橋の数は113にのぼり、その大半が太鼓橋になっている。街並みの景観は管内を東西に走る永代通りを境に大きく異なる。北側は江戸時代から栄えた富岡八幡宮の門前町で観光地としても知られる門前仲町を中心とした賑やかな下町。南側の豊洲地区にはかつて造船所や鉄鋼工場があったが、現在はその跡地に多くの高層マンションや大型ショッピングセンターのほか大学、企業が進出し現在も再開発が進められている。さらに2年後には築地市場がこの地に移転してくることになっており、今後も大きな変化が予想される。

幹線道路は南北に清澄通り、三つ目通り、四つ目通り、東西に新大橋通り、清洲橋通り、葛西橋通り、永代通りなどが縦横に走り、通過交通を中心に交通量は多い。

昨年の交通事故の発生件数は521件で前年比マイナス100件、死者数は2人で同マイナス2人と、このところ減少傾向にあり、今年もその傾向は続いている。

実は深川署は一昨年8月から昨年9月にかけて「交通事故死者ゼロ1年」を記録した。これは暑始まって以来の

快挙で、署や安協、関係団体などのこれまでの活動が報われたと関係者は喜び合ったそうだ。

管内の交通事故の特徴について三井交通課長が話してくれた。「どこの管内でもそうでしょうが、自転車、高齢者が関与する事故の割合が高いですね。特に自転車は、管内には鉄道が7路線・16駅があることから、朝夕の通勤通学時間帯は自転車利用者が多くですね。また北側の深川地区には昔から住んでおられる高齢者が多くいますので、こちらも注意が必要で、当分の間は自転車と高齢者対策に力を入れていきます」

自転車部会の活動が光る

こうした環境の中で活動を展開中の深川交通安全協会の中で、最も活発で注目を集めているのが自転車部会だ。野田安協会長が説明する。「自転車部会は女性部会の中の有志が中心になって組織された組織で、全員が警視庁と東安協が実施している『自転車安全教育指導員講習』を受講済の資格者です。署員とともに幼稚園や小学校に出向いて子ども対象とした実技教室を行うのですが、回数の多いのが特徴で、6月は3日に1度の割合で実施していました。まったく頭が下がります」

自転車の安全教育は実技教室に加えてルールの説明



◀春秋の交通安全運動に合わせて開かれる高齢者実体験教室



▲安協は学校が夏休みに入った7月18日、署の正面横の壁に子どもの交通事故ゼロを呼びかける巨大な懸垂幕を掲出した。夏休み期間中はずっと掲出される



◀安全運動期間中、交差点で保護誘導活動をする安協部会員



野田会長（左から2人目）、三井交通課長（右から2人目）、松本交通総務統括係長（右端）、三浦事務局長（左端）

などの座学も行われる。野田会長が経営する自動車教習所には自転車シミュレータが設置されているので、これらも活用しながら効果を高めている。

深川不動尊で高齢者キャンペーン

高齢者を対象とした啓発活動もさかんで、毎年春秋の交通安全運動に合わせて「高齢者実体験教室」が開かれるほか、毎月28日には本部交通総務課の協力を得て、お年寄りが集まる深川不動尊で「交通安全キャンペーン」を開催している。「工夫を凝らした演出をしていますので、楽しんでいるお年寄りの方も多く、毎回300人以上が参加していると思います」と話すのは、交通総務係の松本統括係長。最近、管内在住のタレント、オスマン・サンコンさんが気軽に出演してくれるようになったので、いっそうの効果が上がっているという。

交通少年団は25人のメンバーが管内の祭りなどで鼓笛パレードを披露、沿道からさかなの拍手をもらう。この夏の恒例の野外訓練は茨城県の農園で芋ほり体験をするのだそうだ。「このところ行事への参加者が減少気味なので、活発な活動が評判の向島交通少年団に知恵を借りに行こうと話しているところです」と安協の三浦事務局長。

トラックの交通事故防止に力を入れる

豊洲地区の再開発や築地市場の転入も間近であり、さらには隣の東京湾岸署の管内では2020年の東京オリンピックの選手村等の施設建設も始まる。こうした環境の変化は交通にも大きな影響を及ぼす。人や車の量が増え、交通流にも変化が出てくる。なかでもトラックの通行量の増加は懸念される。

こうした中、さる6月には江東区内の東京湾岸署管内で小学生がトラックにはねられる死亡事故が発生した。深川署、城東署それに東京湾岸署は、東京都トラック協会の深川・城東支部の協力を得ながらさまざまなトラックの交通事故防止対策を実施中である。トラックストップ作戦のほか死角体験、ステッカー作戦など「考えつくあらゆる作戦」（三井交通課長）を実施中である。

初めに紹介したように江戸の昔からの代表的な下町である管内は、昔ながらの地区と再開発著しい豊洲地区からなる。間近に迫った築地市場の転入、はては東京オリンピック関連施設の工事開始で交通環境も大きく変わってくる。深川交通安全協会は深川警察署と連携しながら従来の活動に加えて、新たな環境にも対処しながら交通事故ゼロをめざしていく。